
本屋さんとおる男。

神谷 美琴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本屋さんとおる男。

【Nコード】

N3329A

【作者名】

神谷 美琴

【あらすじ】

本屋さんに来た男と、店長のちよつと思議なお話。

小説家の男が、ある本屋さんに行きました。

その本屋さんは古い建物で、見た目は駄菓子屋さんみたいでした。

そんな本屋さんから出てきたのは、白髪頭の店長さん。

どうやらポストに用事があつたみたいです。

男は店長さんに問いかけました。

「僕の日記はありますか？」

店長さんは困りました。

男の質問が、あまりにもおかしかったから。

店長さんは答えます。

「ある訳ないでしょう。ここは本屋ですよ」

店長さんが言うと、男はしぶしぶ帰って行きました。

そして次の日です。

あの男がまた本屋さんに来たのです。

質問はやっぱり同じでした。

「僕の日記はありますか？」

店長さんは困りました。

男の質問が、昨日と同じだったから。

店長さんは答えます。

「ある訳ないでしょう。ここは本屋ですよ」

店長さんが言うと、男はしぶしぶ帰って行きました。

そして次の日です。

あの男がまた本屋さんに来たのです。

質問はやっぱり同じでした。

店長さんは困って男が帰った後、店内を見てみました。

ある訳がないと思いつつ。

すると、あったのです。

あの男が言うように、『僕の日記』という本が。

店長さんは慌てて男のことを思い返しました。

この本の作者だったのです。

次の日、店長さんは男を待ちました。

あの男は姿を現しません。

次の日も、またその次の日も。

何日経っても男は現れませんでした。

何日か経ったある日、店長さんの所にある女が来ました。
女は店長さんに問いかけました。

「私の手帳はありますか？」って。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3329a/>

本屋さんとある男。

2011年1月13日02時30分発行